

二条大橋デザイン検討会議

第1回会議資料

- 議題-1 『デザイン検討会議の概要』について
- 議題-2 『デザイン検討の考え方と整備コンセプト』について
- 議題-3 『施設のデザイン案』について

平成27年12月14日
京都市建設局橋りょう健全推進課

●デザイン検討会議の概要

1 会議の目的

- まちのシンボルである二条大橋は、更新時期をむかえ、景観に配慮した整備が求められています。
- 景観に配慮した整備をおこなうにあたり、専門的な知見や地域的な視点から広く意見や助言を求めることを目的として、「デザイン検討会議」を設置します。

2 会議のスケジュールと検討内容

○デザイン検討会議のスケジュールと検討内容は以下を予定しています。

第1回

『デザイン検討の考え方』、『整備コンセプトの設定』、『施設のデザイン案』の説明、意見交換等

第2回

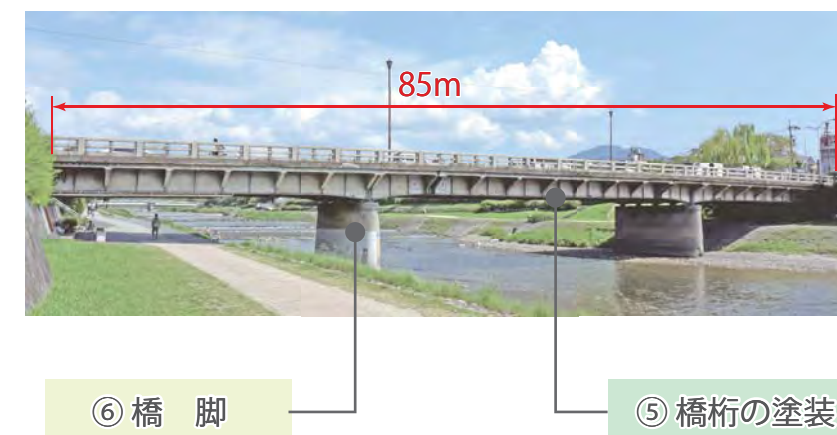
『施設のデザイン案』の説明、意見交換等(続き)

第3回

最終案の報告、意見交換等(総括)

3 デザイン検討対象施設(案)

○二条大橋全体の景観の調和に配慮しながら、右記の施設を対象にデザイン検討をおこないます。



■二条大橋の緒元

- ① 橋名：二条大橋
- ② 路線名：一般市道 二条通
- ③ 所在地：京都市中京区鉾田町～左京区孫橋町地内
- ④ 橋りょう形式：3径間ゲルバー鋼桁橋
- ⑤ 橋長：85m
- ⑥ 幅員：12.6m (2車線, 両側歩道)
- ⑦ 交差物件：一級河川鴨川
- ⑧ 架設年：昭和18年

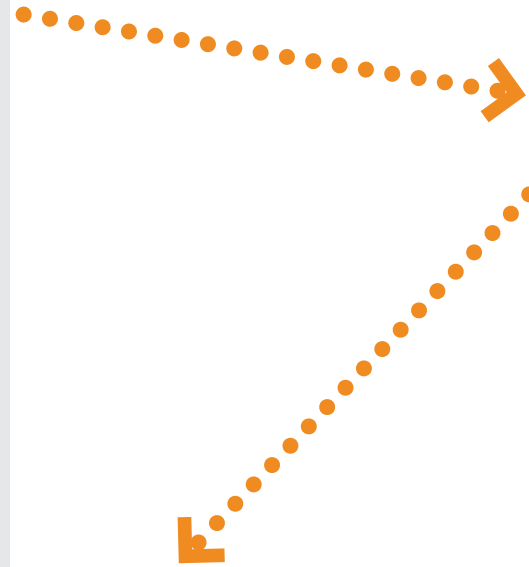
●二条大橋の変遷

■江戸時代

二条城から鴨川にかけての二条通と二条大橋の様子。

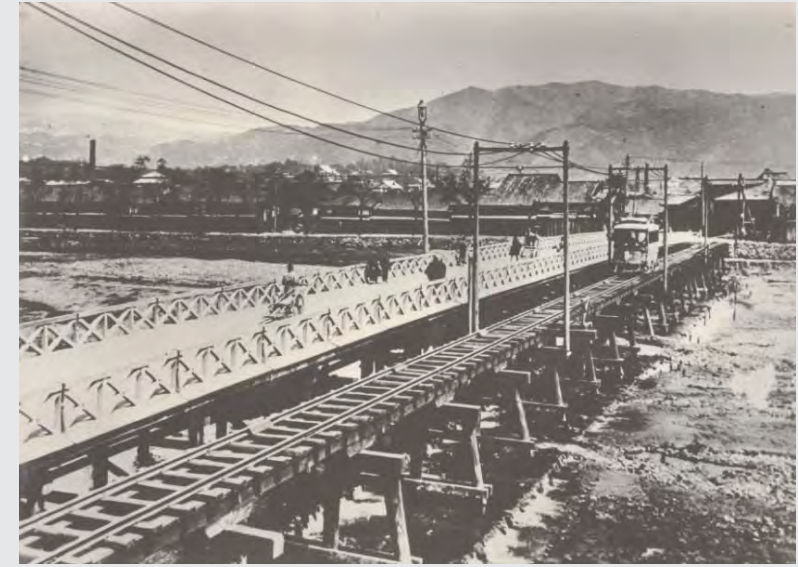


出典:花洛一覽図.文化5(1808)年 / 京都府総合資料館蔵書



■明治

近代になって、京都駅と内国勲業博覧会会場だった現在の岡崎公園を日本最初の市街電車が木屋町通経由で結びました。



東山を背景にした二条大橋と市電専用橋

■昭和

昭和10年(1935年)の鴨川大洪水を機に昭和18(1943)年に現在の二条大橋は竣工しました。竣工当時には、大橋の東側に疏水に架かる小橋も存在していました。



昭和28(1953)年の二条大橋
(出典:京都市役所資料)



昭和40(1965)年の二条大橋
(出典:京都市役所資料)

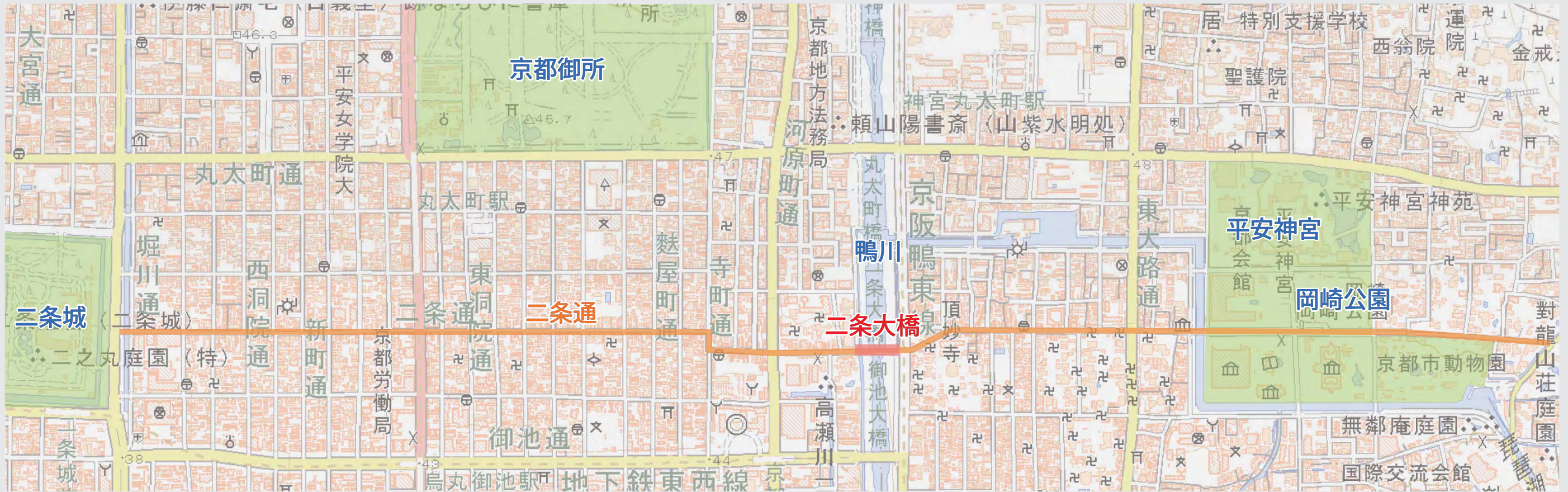


昭和40(1965)年の二条大橋(小橋)
(出典:京都市役所資料)

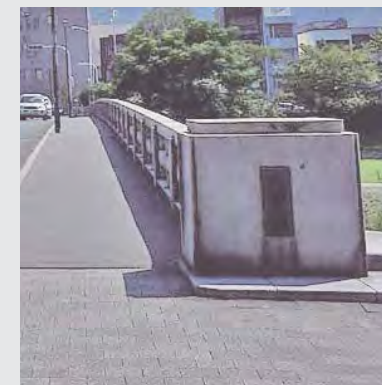
現在の二条大橋

■ 現在

竣工当時のイメージが残り、高欄、橋桁の縦横の直線と橋桁のアーチのような曲線を融合させた美しいデザインを有する二条大橋



現在の二条大橋



- 石製高欄 (親柱)
 - ・擬宝珠や照明を持たない特徴的な形状
 - ・周辺の自然景観と調和する自然石の趣き



- 石製高欄
 - ・寺社仏閣を思わせる伝統的な形状
 - ・周辺の自然景観と調和する自然石の趣き



- ゲルバー鋼橋桁
 - ・構造と機能が調和した美しさが特徴

●デザインの検討方針と整備コンセプトの設定

- デザイン検討会議では、現況の二条大橋の景観的な価値を評価し、二条大橋を視点の中心として、検討領域を広げながら、まちのシンボルとなる二条大橋のあり方を検討します。
- また、それぞれの検討領域から抽出された景観特性やイメージにより、整備コンセプトの設定をおこないます。

二条大橋

まちのシンボルとなる橋の創出



歴史を感じる重厚で趣のある石製高欄・親柱



構造・機能美を有する橋桁



まちなみと調和する自然色の舗装素材



岸辺のシダレヤナギ



みそそぎ川の身近な水面



東山への眺望



二条大橋と鴨川/二条大橋越しに見える北山



夜間の水面に灯る温かい灯り

まちなみと調和し、架設当時の姿のままときを刻んだ二条大橋
『歴史情緒』が感じられる

自然素材を基調とした二条大橋の周辺の景観
『風情』を与えている

鴨川の河川空間と調和した二条大橋を取り巻く景観
『一体感』を与えている

架設当時の姿の継承と安全性の向上

「自然」を感じる歩行空間の創出

「風景」としての一体感を創出

●施設のデザイン案①

○これまでの整理を踏まえ、検討対象施設の具体的なデザイン提案をおこないます。

整備コンセプト

架設当時の姿の継承と安全性の向上

「自然」を感じる歩行空間の創出

「風景」としての一体感を創出

検討対象施設

①石製高欄



②歩道舗装



③車両用防護柵



④道路照明



⑤橋桁の塗装



⑥橋脚



具体的なデザインの提案

① 石製高欄

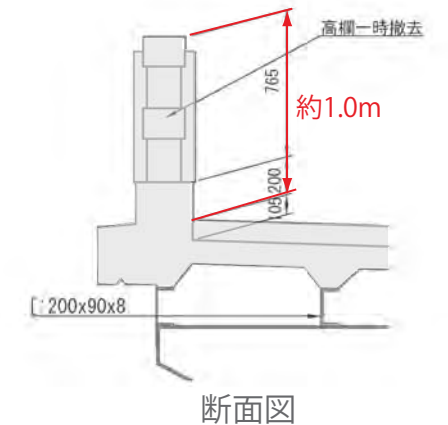
【前提条件】

○現況の石製高欄の高さは約1.0mであり、安全性の確保のため、**高さを1.1mに変更する。**

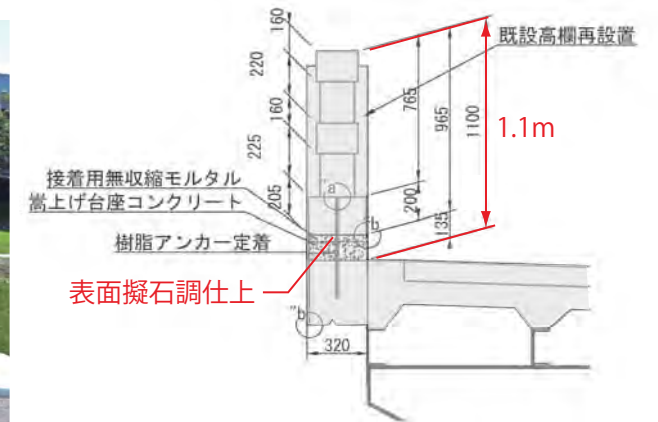
【事務局案】

- 現況の**石製高欄を嵩上げ**することで、安全性を確保した高さの基準を満たす。
- 高欄位置を外側に張り出すことで**幅員を広く**する。
- 嵩上げ箇所については、現況の高欄と調和した**擬石調仕上**とする。

現況



計画



↑嵩上部事例(共に北大路橋)

※現況幅員(2.0m)は変更なし

② 歩道舗装

■ 景観に配慮した舗装の事例

1. 本御影石



花見小路通

2. 本御影石



ねねの道

3. 本御影石



祇園新橋

4. 本御影石



浄福寺通

5. 本御影石



みやこめっせ付近

6. 本御影石



京阪三条駅付近

7. 洗い出しブロック+本御影石



四条(八坂神社付近)

8. 洗い出しブロック



鴨川河川敷遊歩道

9. 擬石調ブロック



御池大橋

■ 二条大橋周辺における歩道舗装の状況

1. 左岸(川端二条交差点付近)



インターロッキングブロック

4. 右岸側上流(リッツカールトン前)



本御影石

2. 左岸上流(川端通)



インターロッキングブロック

5. 右岸側下流(二条通)



インターロッキングブロック

3. 川端通以東(二条通)



インターロッキングブロック

6. 木屋町通



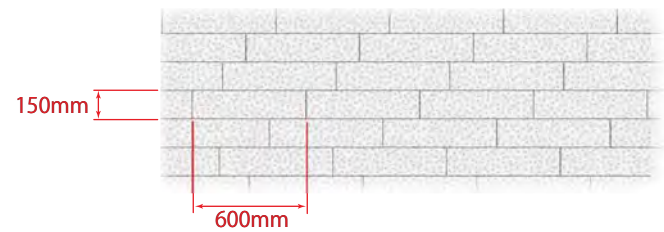
本御影石

② 歩道舗装

【事務局案】

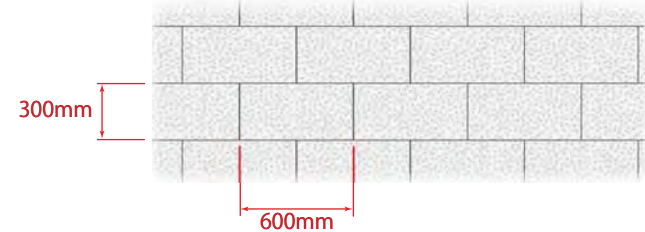
○舗装素材は、石製高欄の形状・素材・色彩と馴染みやすく、歩行空間全体に一体感を持たせる自然素材を基調とした舗装とする。

A 案 本御影石:石幅の狭いタイプ



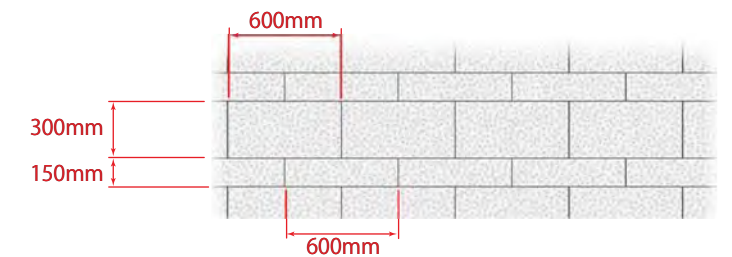
○石幅の狭いタイプの石材をランダムに配置することで、二条通の歩行空間に統一性が感じられる

B 案 本御影石:石幅の広いタイプ



○石幅の広いタイプの石材により、歩行空間により自然素材が感じられる

C 案 本御影石:石幅の狭いタイプと広いタイプの組み合わせ



○石幅の狭いタイプと広いタイプの組み合わせにより、歩行空間に全体にリズム感を演出

●施設のデザイン案②-c

② 歩道舗装

基本検討案① 本御影石:白系

○全面を白系の石張舗装とすることで、石製高欄との統一性を図り歩行空間の一体感を持たせる



基本検討案② 本御影石:グレー系

○車道との明度差を抑えるグレー系の舗装とすることで、橋面全体の景観に落ち着きのある一体感を持たせる



基本検討案③ 本御影石:白系+グレー系

○白系の舗装にグレー系の舗装を組み合わせることで、二条通全体の景観と調和した一体感を持たせる



舗装事例:木屋町通

③ 車両用防護柵

【前提条件】

○車両の橋りょう外への飛び出し防止と、車両乗員の障害及び車両破損を軽減し、車両が柵に衝突した際にも、車両を正常な進行方向に復元させる機能を有する車両用防護柵を新たに歩道と車道の間を設置する。

【事務局案】

○上記機能を有し、景観性や透過性に優れた製品として、下記車両用防護柵を景観検討の候補とする。

①『丸支柱・楕円ビーム』タイプ



②『丸支柱・丸ビーム』タイプ



③『矩形支柱・楕円ビーム』タイプ



④『矩形支柱・丸ビーム』タイプ



⑤『角型支柱・角ビーム』タイプ



A 案

『丸支柱・楕円ビーム』タイプ

○支柱及びビームの形状がそれぞれ丸型、楕円型のため、最も透過性が高く、目立たないデザイン



B 案

『矩形支柱・楕円ビーム』タイプ

○矩形支柱が石製高欄の柱のイメージと調和しやすく、ビームが楕円型のため、比較的透過性の高いデザイン



C 案

『角型支柱・角ビーム』タイプ

○支柱、ビーム共に角型のため、最も存在感があり、石製高欄のイメージとも調和しやすいデザイン



●施設のデザイン案③-b

③ 車両用防護柵

基本検討案

『丸支柱・楕円ビーム』タイプ(グレーベージュ)
○おとなしく落ち着いた色彩



ケーススタディ①

『丸支柱・楕円ビーム』タイプ(シルバー系)
○存在を感じさせない色彩



ケーススタディ②

『丸支柱・楕円ビーム』タイプ(ダークブラウン)
○存在感があり, 落ち着いた色彩



④ 道路照明

【前提条件】

- 車道及び歩道上における**夜間の安全性を考慮した照度**を確保する。
- 維持管理費の低減を考慮した**LED照明(暖色系)**とする。

【事務局案】

- 現況の照明灯具の形状や外観を継承することで、橋上景観や近景に調和するとともに遠景を阻害しない**シンプルな仕様(形状・色彩)**とする。

現況の灯具



A 案

『現況の二条大橋の趣きを踏襲した外観デザイン』



○灯具形状

- ・現況の灯具イメージを踏襲した「和」の趣きの中にモダンな雰囲気を感じられる六角形の外観デザイン

○ポール形状

- ・高級感が感じられ、灯具の形状と親和性の高い六角ポール

B 案

『二条大橋の趣きを踏襲しつつ、よりシンプルにした外観デザイン』



○灯具形状

- ・A案と比較して、灯具の形状をよりシンプルにすることで、周辺景観への影響の低減化に配慮
- ・形状は石製高欄の矩形イメージと調和する矩形を基調とした外観デザイン

○ポール形状

- ・石製高欄及び灯具の形状と親和性の高い六角ポール

C 案

『二条大橋を象徴する石製高欄の格子をモチーフとした外観デザイン』



○灯具の形状

- ・現況の石製高欄の特徴である格子デザインをモチーフとした矩形を基調とした外観デザイン

○ポール形状

- ・橋上景観に変化を与え、道路灯のイメージをすっきりとさせる横出し型の丸型ポール

●施設のデザイン案④-b

④ 道路照明

基本検討案 グレーベージュ

○おとなしく落ち着いた色彩



ケーススタディ ブラウン系

○現況灯具を踏襲した色調, 落ち着いた色彩



●施設のデザイン案⑤

⑤ 橋桁の塗装

【事務局案】

○周辺の景観と調和し、二条大橋の橋桁の美しさが映える塗装色とする。

現況の二条大橋



A 案 青みがかったグレー(現況塗装色)



マンセル値 5PB8.5/0.5

- 現況の橋桁の色彩と同じ色を採用
- 青空や鴨川の水面の色になじみやすい

B 案 白系(生成色)



マンセル値 5Y9/1

- 石製高欄と同系色の白系(生成色)を採用
- 橋の上部との一体感をもたせる

C 案 ダークブラウン



マンセル値 10Y R2/1

- 周辺の緑と調和する落ち着いたあるダークブラウンを採用
- 橋桁の重厚感を強調